

時計台

SAPPORO INTERNATIONAL COMMUNICATION PLAZA FOUNDATION

前から

vol. 76
October/2012

公益法人 札幌国際プラザ

〒060-0001
札幌市中央区北1条西3丁目 札幌MNビル
Kita1 Nishi3, Chuo-ku, Sapporo 060-0001
JAPAN
TEL:011-211-3670 FAX:011-211-3673
E-mail: sicipf@plaza-sapporo.or.jp
URL: http://www.plaza-sapporo.or.jp

北海道の森林保全と環境への配慮のため、道産間伐材を原料にした用紙、有害廃液の出ない「水なし印刷」及び大豆インキを使用して作成しています。



P02

■ 特集

アイヌ・サーミ
カルチャーフェスティバル ほか



P03

■ 特集

札幌・ミュンヘン姉妹都市提携
40周年 ほか



P10

■ コンベンション

国際会議開催支援続々と
IFCAA2012、CogSci2012… ほか



P12

■ 多文化交流

ミュンヘンクリスマス市開催 ほか

北欧の民とともに奏でるアイヌの調べ

アイヌ&サーミナルカルチャーフェスティバル

札幌を中心に、様々な創作活動でアイヌの世界を表現する「アイヌアートプロジェクト(AAP)」。そのメンバー5人が9月末、得意の音楽を携えてノルウェーを訪れました。目的は、北欧の先住民サーミ族との音楽などを通じた交流です。

サーミ族の音楽であるヨイクは、現代音楽との融合でノルウェーはもとより、広く欧米でメジャーとなっています。その代表



アイヌアートプロジェクト(トロムソコンサート)

的歌手マリ・ボイネは、昨年の札幌シテイ・ジャズにも出演し、多くの聴衆を魅了。アイヌの伝統音楽にもその可能性を見出した札幌市民有志が、市内でのリハーサル公演開催などを通じて幅広い市民に呼び掛け、今回の企画を実現させました。旅には、その中心メンバーなど8人も同行。同じ北海道市として、札幌市と30年前から連携してきたトロムソ市の有志の協力も得ながら、音楽公演を核に多彩な交流メニューを用意しました。

両民族によるジョイントコンサートは、北緯70度の街トロムソ市(9月30日(日))と、首都オスロ市(10月3日(水))で1回ずつ。AAP側は、民族楽器トロンコリとムックリの演奏に合わせたアイヌ語の「語り」や、アイヌ民族の神話などを基にする曲を、ギターも交えて披露。サーミ族からは歌手の



ニコ・バルケア・バア氏(トロムソ公演)、グロバル・フィーバー・オーケストラ(オスロ公演)がそれぞれ出演し、サーミ族の唄や演奏を熱演。いずれも民族の伝統音楽

を現代風にアレンジした幻想的なステージで、聞き手も一体となって、この新たなコラボレーションを楽しみました。



アイヌセミナーの様子

会場には、今回の企画に合わせて札幌市がトロムソ市に贈った、アイヌ文化紹介のパネルも展示。音楽公演と併せて、アイヌ文化のPRに一役買いました。

今回の企画では、市民有志の呼び掛けに北海道大学も呼応し、アイヌ・先住民研究センターが、トロムソ大学との共催でアイヌセミナー(10月1日(月))を実施しました。同センターからは加藤博文教授が現地入りし、メンバーに同行。セミナーでは、トロムソ大学サーミ研究センターのピョルグ・アビセン教授とともに、それぞれの民族が置かれた境遇や権利回復などについて講演し、互いの経験から学び合うことの必要性を再確認しました。

6泊8日という駆け足の旅でしたが、トロムソ市滞在中は市長への表敬訪問のほか、博物館やサーミ族のモスカルクタ村、サーミの小学校などを訪問し、各地で交流を深

めました。市長表敬では、札幌市の上田市長から託された親書を手渡し、「世界冬の都市市長会」の活動を通じた交流を一層発展させるべく、協力を要請。自身もバンド経験がある市長とは、トロムソのまちづくりやサーミ族の文化継承、さらにはAAPとの共演にまで話が及ぶなど、会話が弾みました。また、小学校ではサーミの子供たちが、この日のために覚えたサーミ語の歌で一行を歓迎。一行も、全員でピリカ・ピリカを歌ってお礼をするなど、なごやかな雰囲気の中で楽しいひとときを過ごしました。

これらの公演や交流を通じて、アイヌ民族とサーミ族には歴史や文化、生活様式など多くの面で共通点があることを発見。同じ北方に暮らす民として、民族や国の枠を超えた交流の大切さをあらためて認識する旅となりました。

現代音楽との融合で、新たな息吹を得たサーミ族のヨイク。北海道の財産であるアイヌ民族の音楽もまた、今回の交流をきっかけに、さらなる広がりに向けて歩み出そうとしています。



トロムソ市に贈ったアイヌ文化紹介パネル

40年の歴史を刻んで ～札幌－ミュンヘン姉妹都市提携40周年記念～

ロンドンオリンピックで沸いた2012年。1972年に冬・夏のオリンピック開催が縁で姉妹都市提携を結んだ札幌市とドイツ・ミュンヘン市にとっても、40周年という節目の年を迎え、国際プラザでは、様々な記念事業を実施しています。

市民同士の友好を深めよう ～「ミュンヘン・市民交流の旅」～



ミュンヘン大学での昼食交流会

9月5日(水)から12日(水)の8日間、公募による市民訪問団33名がミュンヘン市等を訪問しました。現地では、ミュンヘン大学やバイエルン独日協会、ミュンヘン市民大学関係者のご協力を得て、日本や日本語に興味を持っている方たちを中心にホームビジットをはじめとする様々な交流を実施。限られた時間ではありましたが、ともに楽しい時間を過ごし、今後につながる訪問となりました。また、環境配慮・省エネルギーの施策として市民向けに設けられている住宅センター等も視察。札幌での生活のヒントを得ました。滞在中には、上田市長をはじめ、議員・経済交流団など総勢約80名の一員として、ミュンヘン市主催の祝賀会にも出席し、両市の未友好を確認しました。

札幌へようこそ

～「ミュンヘン市民大学日本研修ツアー」・
「ミュンヘンセミナー～美術・文化編～」～

5月26日(土)から29日(火)の4日間、ミュンヘン市民大学で日本語を学ぶ12名のミュンヘン市民が札幌を訪れました。滞在中は札幌ホームステイ協会の家庭でホームステイをしながら、市内中学校にて生徒との交流や札幌中央卸売市場の見学、お茶・折り紙の日本文化体験を札幌国際プラザ日本文化体験ボランティアの協力をえて、初めての札幌を楽しみました。



中学生との交流

また、5月27日(日)には、同ツアーの引率でミュンヘン市公認観光ガイドでもある日本語講師谷村哲氏によるセミナーを札幌市民ホールにて実施し、81名が参加。ミュンヘンの美術館巡りの楽しみをお話いただいたほか、後半は参加者がグループに分かれ、ミュンヘン市民と交流を深めました。

もっとドイツを身近に ～「ドイツ・ミュンヘンセミナー生活編/ビアガーデン編」～

姉妹都市ミュンヘン市のあるドイツについて、より多くの市民の皆様にご覧いただくため、6月23日(土)には北区民センター区民ホール(共催:北区民センター、参加者75名)、8月11日(土)にはさっぽろ夏まつり「札幌ドイツ村」テント内を会場にセミナーを実施(参加者27名)。いずれも講師は国際交流員のクリスティアン・フィーツェックさんが務め、ドイツならではの面白い習慣や日本との違い、ビールの文化や楽しみ方などを分かりやすく紹介し好評を博しました。



ドイツビールには伝統と歴史が

環境のまちミュンヘンを紹介 ～ドイツ・ミュンヘンセミナー環境編～

10月19日(金)、エルプラザ3Fホールにて、札幌姉妹都市協会、ごみ減量実践活動ネットワーク(さっぽろスリムネット)との共催で「ドイツ・ミュンヘンを知るセミナー～環境編～」を開催しました。講師は国際交流員のクリスティアン・フィーツェックさんと、札幌市環境保全アドバイザーのピアンカ・フルスト氏。

10月はリサイクルをすすめる3R(Reduce, Reuse, Recycle)推進月間ということで、エコ先進国として知られるドイツのごみ減量や、再利用、省エネルギーへの取り組みについて、スライドを交えながら紹介しました。

当日は90人が参加し、日本とは異なる環境、政策や制度の話などに熱心に聞き入っていました。アンケートにご協力いただいた参加者には、エコグッズをプレゼントしました。また、会場にはミュンヘンを紹介するパネルも展示しました。

シールを集めて応募しよう! ～「ミュンヘン・スタンプラリー」～

国際プラザでは、より多くの方に40周年記念事業を知っていただくため、スタンプラリーを実施しています。前述の各種セミナーをはじめ、これから開催する対象事業にご参加いただいた方には応募シールを配布しますので、お気軽にご参加ください。詳細は多文化交流部のHPでもご案内しています。ご応募いただいた中から、抽選ですてきな記念品をお送りいたします。(発表は賞品の発送をもって代えさせていただきます)



外国籍市民の親子と一緒に楽しく暮らそう！

国際プラザでは移住や国際結婚などにより、多様な文化的背景を持つ子どもとその保護者、札幌で子育てをしている外国籍市民をサポートする事業を行っています。

シティサロン・こどもサロン

毎月第3木曜日に未就学児童と保護者、これから親になる方たちを対象に札幌市と共催で「シティサロン」を開催しています。国際プラザでの開催は、「多文化の背景を持つ人が集まる場所があれば」という要望から実現しました。



シティサロン



こどもサロン

外国籍保護者が安心して参加できるように、子育て経験のある外国語ボランティアがサポートしています。札幌市子ども未来局の子育てアドバイザーによる読み聞かせや遊びの時間のほか、日本人の保護者と子育ての情報交換をする場面もあり、「毎月楽しみにしています」と外国籍の保護者からの声がよせられています。

また毎月第4土曜日には、気軽に参加できる居場所づくりを目的に「こどもサロン」を開催しています。外国語ボランティアがパズルやかかるたなどの遊びや学習をサポート

するほか、七夕などの季節の行事と一緒に楽しんでいます。5月から8月までに、述べ40名が参加。保護者同士による生活情報の交換や、交流をする機会にもなっています。

また、7月26日（木）から31日（火）には、札幌国際プラザ外国語ボランティアネットワークLINKによる学習支援を実施。外国につながるのる子ども33名が参加しました。

母子保健・子育て支援セミナー

7月1日（日）には乳幼児を育てていたり、これから出産を予定している外国人保護者を対象に「母子保健・子育て支援セミナー」を開催しました。一昨年から始まった当セミナーも、今回で4回目を迎えました。

当日は9カ国15名の父母が参加し、SEMI（札幌医療英語通訳グループ）の協力にて日英で実施。中央区託児ボランティアの協力を得て、託児も実施しました。

保健師と子ども未来局の職員が妊娠から出産、保健制度や保育サービスを案内。勤医協菊水子ども診療所医師の福山桂子氏には子どもの予防接種、女性の保健等についてお話しいただきました。

また、セミナー後の意見交換会では、講師の方たちに活発に質問する姿がみられました。

今年第2回目のセミナーは12月9日（日）を予定しています。



セミナーの様子

外国人のための法律セミナー 〜知っておきたい日本のルール〜

9月1日（土）、外国人法律支援ネットワークとの共催により「弁護士による無料法律セミナー」知っておきたい日本のルール〜を開催しました（英語通訳つき）。



活発な質疑応答の様子

今回のセミナーは、賃貸借契約、結婚と離婚、労働、刑事事件の4

留学生と話してみたら 〜地域での交流事業〜

国際プラザでは、留学生と地域住民の交流機会をつくることで、地域に住む住民同士としてのつながりを持てるよう支援しています。

6月23日（土）、北区幌北会館では連合町内会と大学生で構成する「学生と地域で考えるまちづくり会」が協力し、ロシアからの留学生5名、地域住民や学生など約50人が参加して交流会を開催。参加者はロシア語講座やロシアの料理を楽しみました。

9月8日（土）には北区民センターで外国語ボランティアネットワークSKYの

つのトピックスについて、外国籍市民が知っておくと役に立つ情報を弁護士が分かりやすく説明しました。

賃貸借契約時には、敷金礼金、家賃などの支払いに関して必ず契約書をチェックすることや、労働に関しては、もし不当解雇にあった場合、解雇理由を明記した証明書を雇い主に求めることなど、具体的な注意点が示されました。外国人を支援する日本人を含む15名の参加者は熱心にメモを取っていました。

セミナーの終了後は、弁護士による無料法律相談会が開催されました。国際プラザでは、外国籍住民が安心して生活できるための取組を、今後も続けていきます。

コーディネートによる「留学生とふれあいトーク」が開催されました。20名の参加者は、ロシアと韓国の留学生による自国の文化紹介やフリートークを通じて、留学生を今までより身近に感じることができました。



「留学生とふれあいトーク」

地域の中の外国人 災害時にどうなる？どうする？ 『国際交流ボランティア講座』

外国人と日本人が互いに「隣人」としての「外国人」の存在を認め、普段から顔の見える関係を築くためには、外国人が日本で生活するうえでどんな問題に直面するのかわかると日本人が理解する必要があります。

6月30日（土）に札幌市社会福祉協議会と共催した講座では、24名の参加者が市内在住の外国人とともに災害をテーマにした体験ゲームを通じて言葉や文化の壁について学びました。ロシア語やアラビア語で書かれた表示を見ながら、意味を理解できないまま選択を迫られると、危険な避難経路

を選んではまったり、飲み水が貰えなかったり…。参加者は、非常時に言葉が分からないという不安な状況を体験しました。終了後には「避難所」という日本人が何気なく使っていた言葉も、外国人にとっては初めて耳にする言葉だと気づいた「いざ」という時に助け合うためには地域のつながりが大事」など、今後の地域での活動に繋がる感想が聞かれました。



一緒に体験ゲームに挑戦

万が一に備え、 正しい防災知識を 『防災ツアー』

防災の日の前日、8月31日（金）に札幌市



消火器体験の様子

総合防災訓練が開催されました。国際プラザでは市内在住の外国籍市民への防災支援を目的に、毎年、この訓練に留学生などと一緒に参加しています。

今年に残暑の中、30名の参加者が防災には欠かせない様々な訓練を体験しました。屋内の避難所設置訓練では、避難者名簿への記入や、非常物資の搬入、非常食の配布という一連の流れを見学し、非常食を地域住民と一緒に受け取りました。屋外では、AEDを使った応急救護体験や、消火器操作訓練のほか、防災グッズの展示等を見学。参加者からは「実際に見たり聞いたりしないと分からないことが多いので勉強になりました」、「訓練で経験を積んだので、これからは他の人も助けてあげられる」との力強い言葉がありました。訓練への参加を通して、万が一の時にどのような準備が地域でされているかを知る良い機会となりました。

学生中国セミナー初開催 『私の中国生活』

『学ぶ、暮らす、出会う』

7月26日（木）、札幌姉妹都市協会、札幌大学孔子学院との共催により、学生中国セミナーを開催しました。今回の中国セミナーは2012「日中国民交流友好年」実行委員会の認定により、2012年日中国交正常化40周年記念事業の一環として実施しました。

セミナーでは、札幌出身で現在、中国・瀋陽市の遼寧大学文学院に留学中の猪野田三紗子さんが、留学生生活や中国人との触れ合い、中国に行って感じた自分自身の変化など、留学生の視点から現代の中国について紹介しました。



自分の見た中国・日本について意見交換

その後、札幌大学孔子学院の張偉雄学院長が海外留学の意義や「異文化を生きる心得と術」、中国語の語学検定試験HSKについて説明しました。41人の参加者は興味津々の様子でお二人の話に耳を傾けていました。セミナー後の意見交換でも、中国人留学生を囲んで、中国や日本での留学生活について話が尽きませんでした。

最新の留学情報等を交換 『札幌圏大学国際交流フォーラム』

総会・スタッフセミナー等



平成24年度フォーラム総会

札幌圏の大学・短期大学が国際交流等に関する情報交換を目的として1989年に設立した札幌圏大学国際交流フォーラムは、現在23の大学および短期大学が会員校となり、事務局を国際プラザに置いて活動しています。

5月18日（金）、京王プラザホテル札幌を会場に「平成24年度総会・スタッフセミナー・情報交換会」を開催しました。今年度の総会には、16大学より22名の国際交流担当職員が参加しました。総会後のスタッフセミナーでは「大学教職員が知りたいたく留学最新事情」というテーマにより各国留学最新事情をはじめ、米公益財団法人日本英語協会をはじめ、米国、英国、オーストラリア、カナダ、フィリピン、フランスの教育関係機関等による最新の留学動向について説明がありました。また、セミナー終了後の情報交換会では、スタッフセミナーに出席した各国教育関係機関のスタッフや在外公館の職員、各大学の教職員との有意義な交流の場となりました。

ノビシビルスクを知ろう
 ↳レットトークロシア語
 スペシャル



市民とフリートーク

7月11日(水)、レットトークロシア語スペシャルを開催しました。札幌市の姉妹都市であるロシア・ノビシビルスク市から来札した青年訪問団9名が、日本人参加者26名とフリートークを楽しみました。

第1部では、青年訪問団の皆さんがノビシビルスク市について練習した日本語で丁寧な説明してくれました。第2部では、グループに分かれて参加者と一緒にフリートーク。自己紹介やお互いのまことにあふれました。

終了後も、青年訪問団の皆さんと写真を撮るなど、別れを惜しんでいました。参加者からは「もっと時間があれば良かった」「なかなかロシアの方と接する機会がなかったけど、参加してロシア語の勉強になり、ロシアが好きになりました」との意見が寄せられました。

カルチャーナイト2012参加事業
 「世界はひとつ!」
 輪になって遊ぼう!

7月13日(金)、国際プラザ交流サロンにて、カルチャーナイト2012参加事業「世界はひとつ!輪になって遊ぼう!」を開催しました。アメリカ、ドイツ、中国、ロシア、韓国の国際交流員が、それぞれの国の「輪になって遊ぶゲーム」を紹介し、小学3年生から6年生までの児童26名が参加しました。

アメリカの「英語でフルーツバスケット」、ドイツの「ウイニングゲーム」、中国の「数字のゲーム」、ロシアの「縄のゲーム」、韓国の「大門遊び」と、全員が5つのゲームに参加し、楽しそうな声が響きました。また、姉妹都市アメリカ・ポートルランドとロシア・ノビシビルスクから来札中の高校生や青年たちも参加し、交流を深めました。

最後には、5か国語での「じゃんけん大会」を行い、大盛り上がりの中、うちで終了しました。



韓国「大門ゲーム」の様子

アメリカにふれよう
 ↳アメリカンコーナー

4月21日(土)、アメリカンコーナー絵本読み聞かせを行いました。駐札幌米国総領事館のジョン・テイラー領事が、5才から小学3年生の子どもを対象に3冊の絵本を英語でやさしく読んでくださいました。テイラー領事が、ギターを弾きながら歌を歌う場面では、みんな歌に合わせて手拍子をするなど、子どもも保護者も楽しみました。当日は、過去最多の19組46名の親子が参加し、会場がにぎわいました。

6月9日(土)にはアメリカンコーナー音楽交流会を開催しました。参加者お好みの曲を皆で聞き、音楽や歌手の裏話、曲への思い出などで盛り上がりました。当日は、13名が参加しアットホームな雰囲気会場は和みでした。音楽のタイトルを当てるゲームでは、耳に

移動領事サービス
 ↳在東京ブラジル領事館 在日
 フイリピン共和国大使館

8月8日(水)、在東京ブラジル領事館が来札し、移動領事サービスを行いました。東北や北海道に住むブラジルの方たちが、札幌でビザやパスポートの更新などの諸手続きを受けました。また、9月29日(土)には、在日フィリピン共和国大使館による出張領事サービスを実施。約100名の方が手続に訪れました。

したことはない曲やどこかで聞いたことはあっても曲名がわからない曲もあり、悩む方もいましたが、積極的に参加しながら楽しんでいました。

また、8月30日(木)には読書会を行いジェフリー・ダフィー領事が着任して初めてのイベントとなりました。10名の参加者からは「新しい領事とお話ができ、よかったです。これからもダフィー領事のイベントに参加したいです」との声がありました。



音楽交流会

●レットトーク中国語、英語の時間変更のご案内●

- (旧) 毎週月曜日 12:20 ~ 13:20 中国語
- (新) ⇒ 第1、2、3、5月曜日 12:20 ~ 13:20**
- 第4月曜日 18:00 ~ 19:00**
- (旧) 毎週火曜日 12:20 ~ 13:20 英語
- (新) ⇒ 第1、2、3、5火曜日 12:20 ~ 13:20**
- 第4火曜日 18:00 ~ 19:00**

仕事帰りの方や学生の方も気軽に参加できるよう夜の時間帯を作りました。参加無料、予約不要、途中参加OKです。その他、韓国語、ロシア語、ドイツ語、日本語もあります。詳細は札幌国際プラザのホームページをご覧ください。

80通の証明書から見る 中国人の一生 〜第30回中国を知るセミナー〜

9月27日(木)、国際プラザ交流サロンにて、第30回中国を知るセミナーを開催しました。講師は国際交流員の賀小雲さん。昨年12月に開催して好評を得た、中国版ツイッターに関するセミナーに続いて2回目のセミナーとなりました。

中国には「独身証明書」「一人っ子父母栄光証」「初婚初育証」など日本にはない証明書がたくさんあり、一生で80通もの証明書が必要だという興味深い内容でした。なぜこうした証明書があるのかを説明する中で、中国人の勉強や仕事、老後の生活などについての現状がわかり、参加した人たちは時折メモを取ったり頷いたりしながら、熱心に聞き入っていました。



講師の賀小雲さん

こどもものまち ミニさつぽろ2012へ出展

9月29日(土)から30日(日)の2日間、札幌市内に住む小学3〜4年生を対象にした職業体験イベント「こどもものまちミニさつぽろ2012」が行



パンフレット作りに励む子どもたち

われました。「ミニさつぽろ」という仮想の街で、子どもたちに働くことの楽しさや大変さを体験してもらい、世の中の仕組みを学んでもらうことを目的としたイベントで、国際プラザは「国際交流スタッフ」として2日間で325名の子どもたちを雇用しました。

札幌市の国際交流員が札幌の姉妹都市について紹介した後、子どもたちは姉妹都市を紹介するパンフレット作りにチャレンジ。国際交流員やスタッフに質問し



姉妹都市について勉強

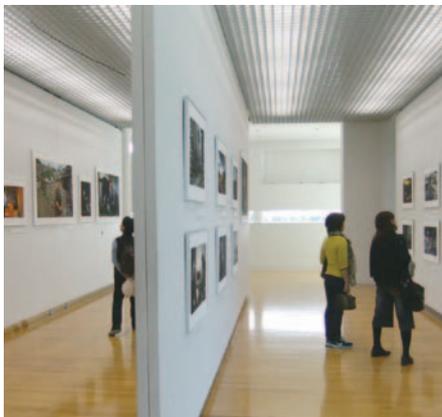
ながら、一生懸命、丁寧にパンフレットを作り、出来るだけと国際交流スタッフ認定証と一緒に持ち帰りました。

「楊海写真展」 市内3カ所で開催

日中国交正常化40周年を記念したこの写真展は、9月3日(月)から10月10日(水)にかけて、札幌市役所1階ロビー、エルプラザ、モエレ沼公園ガラスのピラミッドの3カ所を巡って開催されました。

楊海氏は北京在住で、コンサルタント会社を営みながら20年以上にわたって中国各地を巡り、少数民族を中心に写真を撮り続けています。これまでアメリカの雑誌「Smithsonian」第6回国際撮影コンテストの最優秀作品(2009年)に、全日本写真連盟主催第70回国際撮影サロンで最優秀写真賞に選ばれるなど、数々の国際的な賞を受賞しています。

今回展示されたのは大小約60作品で、訪れた方々からは、「懐かしさを感じる良い写真ですね。」などの感想が寄せられました。



モエレ沼会場

ロシア語の 美しい響きを楽しもう 〜第22回ロシア語詩のつどい〜

9月30日(日)、国際プラザ交流サロンにて、日本ユーラシア協会札幌支部、札幌姉妹都市協会との共催で、「札幌ーノボシビルスク姉妹都市提携22周年記念 第22回ロシア語詩のつどい」を開催し、約30名が参加しました。

このイベントは札幌とノボシビルスク市が姉妹都市提携を行った年から開催され、毎年、提携記念行事として実施されています。

今回は、詩の朗読だけでなく、国際交流員のマキシム・サゾフさんによる姉妹都市ノボシビルスクについての講演も行われました。

来年は是非このイベントに出たいと意欲を燃やし、とても熱心に耳を傾けている来場者もいました。



詩の朗読の様子

姉妹都市交流の更なる推進に向けて

「札幌姉妹都市協会全体会議初開催」

5月15日(火)、国際プラザ交流サロンにおいて札幌姉妹都市協会全体会議を開催しました。平成23年度をもって改組した後初めての全体会議は、顧問、オブザーバーを含む47名の会員が出席して行われ、平成24年度からは国際プラザと一体となって姉妹都市交流事業を行っていくことを確認しました。また、各会員団体より、今年度に予定されている姉妹都市交流事業について報告がありました。

また、村山紀昭会長より、会員同士の迅速な情報交換・共有を目的に、メーリングリストを作ることに提案があり、現在、情報交換のツールとして活用しています。

日本の文化や日本語を学びましょう

「第4回ノボシビルスク日本語青年訪問団」

7月3日(火)から7月13日(土)にかけてロシア・ノボシビルスクで日本語を学んでいる9人の青年達が札幌を訪れました。わずか10日間でしたが、市長表敬に始まり、市内観光や施設見学のほか、ボランティアによる日本語授業や1泊2日のホームステイ体験、小学校や大学訪問など、様々なプログラムを行い、多くの市民と触れ合いました。普段、彼らは映画や漫画などで日本について勉強しているのですが、今回の訪問で「実際の

日本はイメージと全然違った」と話していました。この訪問を弾みに、より日本文化や日本語に対する興味を高め、知識を蓄積し、将来、日本とロシアのかけ橋になってくれることを願います。また、交流した小学生をはじめ、多くの札幌市民にとってもロシアを身近に感じてくれたことを願います。



北海道神宮にて

ノボシビルスクの子どもたちが描いた日本

「絵画44点を展示」

外国人が日本についてどのようなイメージを持っているか考えたことがありますか？7月23日(月)から27日(金)まで札幌市役所1階ロビーで「札幌の姉妹都市ロシア・ノボシビルスクの子どもたちによる絵画展」ノボシビルスクの子どもたちが描いた「日本」を開催しました。7歳から18歳までの子どもたちが、日本をイメージして描いた絵44点を展示。様々なジャンルとスタイルの絵が並び、訪れた750名を超える市民の目を楽しませてくれました。ロシアでは神秘的なものシンボルとして考えられている竜の絵が多く見受けられ、日本は不思議で魔法にあふれている国でもあるようです。その他、ロシアで人気がある日本のアニメに影響を受けた絵、侍や和服美人を描いた絵もたくさんありました。

ポートランド・グラント高校夏期研修が実現

「市立高校校長会プラザがサポート」

6月29日(金)から7月23日(月)まで、アメリカポートランド・グラント高校で日本語を学んでいる生徒20名が札幌で研修を行いました。

この研修は約4年の準備・調整期間を経て実現したもので、学校単位の「姉妹校交流」ではなく、札幌市立高校校長会が授業参加プログラムとホームステイ家庭の確保を行い、国際プラザと札幌姉妹都市協会がポートランドとの調整を行いました。ポートランド側からは、今後、札幌の高校生を受け入れ、相互交流をしていきたいと強い希望が寄せられています。

研修中は市立高校7校が受入校となり、グラント高校の生徒が一人ずつホームルームに所属して授業や学校祭を体験。その他、エルプラザや円山動物園、市民防災センター、市立豊成養護学校などを訪問し、施設の取組について勉強しました。

また、国際プラザ日本文化体験ボランティアの協力による、着付け体験をしたり、札幌ポートランド会の方々と交流したりと充実した日々を過ごしました。



札幌市長を表敬訪問

札幌姉妹・友好都市の今

「ノボシビルスク」

ロシアでは9月から新学期が始まるため、様々なサークルや部活もスタートします。ノボシビルスクにある市立シベリア北海道文化センターも9月5日(水)に開講しました。

シベリア北海道文化センターは札幌市民とノボシビルスク市役所とが共同で建設し、シベリアにある日本文化の基地として、日本文化の普及に力を入れています。小学生から社会人まで様々な人が日本語や日本文化を勉強しており、日本語を勉強している人は年々増えています。今年も200人ほどの初心者が入って、全体で350人ほどが勉強しています。副館長のプーリック・イリーナさんは「ノボシビルスク市民は日本に対する関心が高いのでうれいのです」と話しています。お互いの文化を勉強することで、札幌とノボシビルスク市民の友好関係が深まることを期待しています。



日本文化を学ぶ子どもたち

(マキシム・サゾノフ)

「札幌姉妹・友好都市の今」は札幌市の国際交流員がお届けするコーナーです。

欧州市場へ向け、札幌をアピール IMEX2012への出展

国際プラザ・コンベンションビューローでは、5月22日(火)から24日(木)まで、ドイツ・フランクフルトで開催されたIMEX2012(The Worldwide Exhibition for Incentive Travel, Meetings and Events)に出展し、欧米地域を中心に世界各国のMICE主催者やミーティングプランナーに対し、プロモーション活動を行いました。

欧州最大のMICE専門見本市であるIMEXは、有力なMICE関係者が招聘され、質の高い商談が行えることとして参加者の強い支持を集めています。札幌は、昨年引き続き、全国各都市のコンベンション推進機関や旅行会社など16団体とともに、日本ブース内に共同で出展し、3日間で19件、イギリス、フランスなどの欧州国、米国、カナダなどに加え、シンガポール、韓国などのアジア諸国のバイヤーと商談を行いました。商談では、インセンティ



札幌商談風景

韓国最大のMICE見本市 KMEへの出展

ブ(企業の報奨旅行)や企業ミーティングを取扱う旅行会社、会議運営会社に対し、豊かな自然、新鮮な食べ物、豊富な会議開催経験、市民による温かいおもてなしの心をアピールし、札幌でのMICE開催を強く働きかけました。

また、日本ブースでは、メディア向けのプレスイベント、お寿司や日本酒をふるまうハッピーアワーなど、出展団体が一丸となって世界へ日本をアピールするイベントも行われ、ブースに訪れた各国バイヤーと活発な情報交換の場となりました。

7月4日(水)、5日(木)の両日、韓国最大のMICE見本市に出展し、展示・商談を行いました。今年は、史上最大規模の



日本ブースプレス向けイベント

190の機関、321ブースの出展があり、韓国観光公社が厳選した国内外の優秀なバイヤーたちが参加しました。

国際プラザでは、NPO法人コンベンション札幌ネットワークや、株式会社プリプレスセンター、株式会社JTB北海道、株式会社PRセンターの3企業との合同で「つぼろブース」を展開しました。ブースは、札幌の清い空・環境への取り組みをイメージする「青」を基調としたシンブルな壁面に、ユニークベニューを紹介する画像を掲示し、雪の結晶のオブジェと舞い降りる雪をイメージした装飾台を中央に設置。冬とすがすがしい夏風の両方を演出し札幌の魅力のアピールしました。

今回、商談件数は50件となり、手応えを感じられるものもありました。

招聘バイヤーは韓国のみならず欧米からも、旅行社、教育機関など多方面分野から参加し、次の訪問先として北海道・札幌の情報収集を目的とするものが多くありました。中には、来年以降の会議開催の候補地として札幌を検討したいという案件がある一方、東南アジア各国のバイヤーたちからは、札幌までの移動経費が高いとの意見も聞かれました。コスト高となっても他の地域に対抗できるコンテンツを提案していく必要があると思われれます。



KME2012 商談

大反響！企業LOGO入り オリジナルフルーツ

国際プラザでは、海外からの企業インセンティブツアーをさまざまな形で支援していますが、地元ならではの素材を活かした企業オリジナルグッズの企画提案は、毎回好評を得ています。アジアにこだわって北海道の果物は憧れのブランド品。国際プラザでは、数年前から、ニセコ町の農園の協力を得て、企業ロゴ入りのオリジナルメロンの提案に成功し、関係者から高い評価を得ています。



札幌 MICE ロゴの入ったメロン

このたび、今年のメロン収穫に合わせ、札幌MICEの誘致プロモーション用グッズを製作しました。近年、MICEプロモーション活動においては、札幌とニセコ地域の連携を強化しているところであり、これまで協力いただいた小田切農園では、朝もぎアスパラガスとピザづくり、もぎたてトウモロコシの生食体験など、次々と新しいMICE向けプログラムを生み出しています。

今後、これら地域に根差したオリジナルプログラムの開発を手がけながら、札幌・北海道のインセンティブツアー誘致に弾みをつけていきたいと考えます。

オリジナルメロンに関する問い合わせは、誘致支援課まで。

タイからの視察研修団が續々と！

本年度に入り、タイからの視察研修グループが續々と札幌に来訪し、旅行目的の地としての北海道人気の高さをうかがわせています。視察ツアーの開催が決まる要因には、業務につながる研修が含まれていることが必須であり、国際プラザでは、各団体からのリクエストに応じた視察先の手配を行いツアー誘致に努めています。

7月26日(木)、タイ政府宝くじ局より18名の公務員が来訪した際には、札幌市財政局財政部の協力により、札幌市の財政の仕組みや、日本の宝くじ事業の概要等についてレクチャーが行われました。参加者は、日本の財政事情に関して終始熱心に耳を傾け、質問や意見も飛び交っていました。

また8月17日(金)には、バンコク及び近郊の看護師団体であるメディカルサービスデパートメントから42名が北海道を訪れました。これまでもアジアからの研修団の受け入れ経験を持つ医療法人社団静和会では、タイと日本の両国旗を玄関に掲げ、タイ人通訳を独自で手配したほか、資料もタイ語に翻訳。万全な受入体制とあたたかい歓迎の心に、来訪した看護師は歓喜の声をあげ、今後も交流を続けていきたいと話していました。



病院視察後の質疑応答の様子

首都圏大手旅行代理店へ道内施設が共同セールス

2010年、札幌市が「札幌MICE総合戦略」を策定して以来、国際プラザでは、道内のMICE関係機関とともにMICEプロモーションを積極的に展開しています。首都圏営業については、東京事務所に営業担当部長を配して活動していますが、ホテルの新着情報や旬なエクスカーションコースの提案など、リクエストは常に多様化しています。首都圏のMICEに対し、より効果的な誘致セールス活動を促進するためにも、官民あげた取り組みが必要となることから、9月13日(木)、JTB法人東京の協力を得て、北海道MICEワークシヨプを初めて開催しました。JTB法人東京は、首都圏で最大規模の営業マンを有する旅行会社であり、出展した市内及び近郊のホテル等10施設の担当者は、直接セールスの手ごたえを十分に感じたとようです。また、今回の出展を機に、道内施設間のネットワークも構築され、新しい連携のアイデアが出るなど、二次的な成果もありました。

国際プラザでは、これらの結果をふまえて、首都圏セールス第二弾の企画も検討中です。



会場の様子

国際会議開催支援続々と IFCAA2012、北大理学研究院数学研究集会、CogSci2012

国際プラザ・コンベンションビューローでは、国際プラザボランティアの協力のもと、札幌で開催される国際会議に対し、様々なおもてなしプログラムを実施しております。

6月20日(水)から23日(日)まで、札幌コンベンションセンターにおいて、IFCAA2012(第27回アジア消防長協会総会、第64回全国消防長会総会、国際消防・防災展)が開催され、アジア・オセアニア地域内16カ国・地域の消防長に加え、一般市民合わせて14,000名以上が参加しました。

アジア各国・地域の参加者に対し、書道と茶道体験プログラムを実施し、参加したオーストラリア人女性からは、日本文化に触れることができる貴重な体験であったという声も聞かれました。

また、22日(土)、23日(日)に開催された札幌国際消防・防災展では、会場内に案内デスクを設け、



書道体験

国際プラザ・外国語ボランティアが、会場内や市内情報を案内しました。

7月30日(月)から8月3日(金)まで、6カ国、約80名が参加した北海道大

学理学研究院数学研究集会“変化する形のための変分法”会議では、シティウォークツアーを開催しました。16名の国内外からの参加者と、外国語ボランティアは、バス、地下鉄、徒歩で北海道神宮や千歳鶴酒ミュージアム等、約4時間に及び札幌の街を散策しました。中でも千歳鶴酒ミュージアムでの酒の試飲が人気で、お子様は酒粕ソフトクリームを楽しむ等、ツアーを満喫されていました。

8月1日(水)から4日(土)まで、43カ国・地域、約830名が参加して開催されたCogSci2012(第34回国際認知科学会年次大会)では、外国語ボランティアとともに、シティインフォメーションデスクを設置しました。参加者に安心して札幌滞在を楽しんでいただけるよう、市内および近郊の観光情報などを提供しました。



数学シティウォークの様子

トップセールスで中国市場に「さっぽろMICE」をPR!

国際プラザ・コンベンションビューローでは2011年度に続き、今年度も中国北京市における「さっぽろMICEセミナー」の開催をはじめ、中国からのインセンティブツアー誘致に向けた活動を続けています。

～広域連携中国MICEキーパーソン招請事業～

6月下旬には4日間の日程で、札幌・小樽・倶知安・ニセコの4市町合同により、MICEキーパーソン5名を招請して、4市町を巡る視察プログラムを実施しました。主に各地のMICE関連施設の見学や体験プログラムへの参加をおこない、中でも貸切の市電車内における茶道体験は、招請者からも大好評でした。札幌市内で開催した意見交換会では、招請者より「北海道は自然や空気がきれいで人々が優しく、インセンティブツアーの目的地として相応しい」との評価がありました。その一方で、「中国人客を誘致するには、中国の文化を知り中国人と触れ合うことが大切。ぜひ、より多くの日本人たちに中国まで足を運んでもらいたい」との要望も受けました。今回は、4市町が合同でおこなった初めての大型MICEプロモーション事業でしたが、自治体や企業・農家・市民などがアイデアを出し合うことで充実したプログラムとなりました。



市電車内での茶道体験

で足を運んでもらいたい」との要望も受けました。今回は、4市町が合同でおこなった初めての大型MICEプロモーション事業でしたが、自治体や企業・農家・市民などがアイデアを出し合うことで充実したプログラムとなりました。

～「さっぽろMICEセミナー」の開催～

8月3日(金)には、北京市内の「京倫飯店」において、「さっぽろMICEセミナー」を開催しました。セミナーでは現地の企業関係者30社35名に対し、大自然やアイヌ民



上田市長によるスピーチ

族・やさこいソーランといった特色豊かな資源を活かした札幌でのインセンティブツアーの魅力を紹介しました。また、今回は上田市長のトップセールスによるPRとして、「MICE都市さっぽろ」の印象を付けることができました。

～国際MICE見本市「CIBTM」への出展～

9月12日(水)～14日(金)にかけては、北京市内「国家会議中心」において開催された「CIBTM」に出展しました。今回



商談の様子

も日本国内の他団体や企業とともに「ジャパンプース」として出展し、中国をはじめとする世界各国のMICE専門旅行会社や企業・団体等のMICE担当者と商談をおこないました。

積極的なプロモーションの展開により、多くの中国のMICE関係者に北海道・札幌の魅力を伝えることができ、ネットワークも広まりつつあります。政治的には厳しい状況下でも、将来を見据えた誘致活動を続け、より多くの来客につなげてまいりたいと思います。

会議・イベント等の業務担当者育成セミナー MICEアカデミー【初級編】【中級編】



MICEアカデミー【初級編】の様子
屋外で環境配慮のケータリングについて研修

国際プラザは、札幌市観光コンベンション部、NPO法人コンベンション札幌ネットワークと共同で、2011年度からの3年間、MICEに関わる人材育成を目的とした厚生労働省地域雇用創造推進事業の企画・運営を行っています。「MICEアカデミー」という名称によるこの一連の研修事業は、現在業界で働く方々の啓発による事業発展と雇用拡大、ならびに就職希望者への関係情報提供や技能向上研修による雇用機会増大を図るもので、2年目の今年は昨年度より早く事業を開始し、6月に【初級編】、7月に【中級編】を実施しました。

【初級編】では、4日間にわたり業界基礎知識と情報を座学と視察・体験で学び、それをレベルアップした【中級編】では、3日間の講習とワークショップで、さらに実践的

な技能などを習得しました。

参加者はみな非常に熱心で、講師の話真剣に聞き、質問し、体験型の研修でもすべての活動に積極的に取り組んでいました。また終了後のアンケートでは、多くの方々から今回の体験が有益であったとの感想もいただきました。

本年度後半は業界企業の事業主や在職者対象の【企業編】を10月に、求職者の方々を対象に、より多くの関連企業との情報交換の機会を提供する【就職フェア】を平成25年2月26日(火)・27日(水)に実施する予定で、できるだけ多くの方々の雇用機会を創出できるよう、充実した内容となるべく検討が行われています。



MICEアカデミー【中級編】の様子
模擬プレゼンテーションのための準備作業

Information

インフォメーション



はじめまして 尹少榮 (ユン・ソヨン)さん

札幌のみなさん、こんにちは。
今年の4月に、札幌市国際部に着任しました韓国国際交流員のユン・ソヨンと申します。
私の初めての海外経験は日本、しかも札幌です。1か月間の語学研修(藤女子大学)と1年間の交換留学(北星学園大学)を経て、現在また、札幌に滞在して仕事をさせていただいているので大変嬉しく思っています。
最近の私の出来事といえば、「第37回札幌マラソン」の10キロコースに出場し、今も筋肉痛になっていることです。来年も参加したいと思っていますので、ご興味のある方は、ぜひ一緒に走りましょう!
毎週水曜日は18時から1時間、国際プラザで「韓国語レッツトーク」を行っていますので、気軽にお越しになってください。お待ちしております!

コンベンションカレンダー

国際プラザ・コンベンションビューローでは、札幌市内で開催が予定されている主なコンベンションで、主催者側から公表が許可されているもののみ、ホームページ上の「コンベンションカレンダー」にて公開しております。コンベンションカレンダーは半期に一度更新をおこなっており、約1年先までの開催情報だけでなく、既に開催された過去の情報も提供しておりますので、ご活用ください。

<http://www.conventionsapporo.jp/j/meeting/calendar/calendar.html>

国際コンベンション

2012年 11月	第51回電子スピサイエンス学会年会	(185名)
11月	公益社団法人日本顕微鏡学会第56回シンポジウム	(85名)

国内コンベンション

2012年 11月	ソロプチミスト日本財団 平成24年 年次贈呈式	(2500名)
12月	第42回日本創傷治療学会	(205名)
2013年 2月	第5回日本不安障害学会学術大会	(500名)

フローエ・ヴァイナハテン! (メリー・クリスマスを意味するドイツ語) 第11回ミュンヘン・クリスマス市 in Sapporo

札幌・ミュンヘン姉妹都市提携40周年記念
今年もクリスマスイブまでの29日間! (11/26(月)~12/24(月・祝))



クリスティアン・フィーツェック

皆さん、こんにちは!札幌市国際交流員(ドイツ)クリスティアン・フィーツェックです。札幌の初冬を飾るイベントのひとつ「ミュンヘン・クリスマス市 in Sapporo」についてご紹介します。このクリスマス市がミュンヘン市との姉妹都市提携30周年を記念して初めて開催されたのは、2002年のこと(来場者数36万人)。10回目となった昨年のクリスマス市には80万4千人もの市民や国内外からの観光客が訪れるほどの一大イベントへと成長しました。2012年は、ミュンヘンとの姉妹都市提携40周年を記念する節目の年です。より魅力的なクリスマス市を目指して、楽しいイベントが企画されたり、クリスマス市のサテライト会場がさらに2カ所増える(さっぽろテレビ塔、サッポロファクトリー)など、着々と準備が進んでいるところです。

メイン会場である大通公園2丁目では、ドイツやフィンランドなど海外からの5店舗を含む物販ブース17店舗がクリスマスにちなんだ雑貨などを出品し、また、飲食提供ブース10店舗では、会場を訪れる皆様に本場ドイツの料理をはじめ多彩な飲食物をご提供します。

そしてクリスマスと言えば「サンタクロース」!会期中のクリスマス市会場で行われる様々なイベントなどに足を運ん

でいただくと、サンタクロースに出会うことができます。クリスマス市公式ホームページでは、イベントや各ブースの情報とともに、サンタクロースについてもご紹介してまいりますので、ぜひご覧になり、お誘いあわせのうえ、各会場へお越しください!



サンタクロース

【会場】〈メイン会場〉大通公園2丁目
〈サテライト会場〉札幌駅前通地下歩行空間
さっぽろテレビ塔
サッポロファクトリー

【公式ホームページ】 <http://www.sapporo-christmas.com/>

協賛金ご協力をお願い

魅力あふれるクリスマス市を実施するため、皆さまのご賛同と協賛金のご協力をお願いいたします。協賛金は一口1,000円(ご協力いただいた方々には会場で販売する当年度記念マグカップを進呈!)です。詳しくは実行委員会(札幌国際プラザ内:☎011-211-2105)へお問合せ下さい。